



Waffle Annual Report 2024-2025

NPO 法人 Waffle
年次報告書 2024-2025



ご挨拶

2024年度も Waffle の活動を支えてくださり、誠にありがとうございます。2019年の創業から5年という節目を皆さまとともに迎えられることを、心より嬉しく思っております。私たちが活動を続けていけるのは、日々たくさんの支援をいただいている企業・団体、応援していただいている皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。

教育事業においては、中高生向けの Waffle Camp を全国6都市で開催しました。オリジナルサイト制作やIT業界で働く女性のロールモデル講演を通じて、テクノロジーへの興味関心の醸成とキャリア形成を支援しました。

2024年度は新たに、地方強化の取り組みとして、宮城県気仙沼市、長崎県五島市などで小学生向けのプログラミング・AIワークショップをパイロット的に開催しました。「AIを使って海をきれいにしよう!」といったプログラムを実施し、地域に根ざした早期からのテクノロジー教育に挑戦しています。

また、中高生向けのオンライン定期プログラム「Waffle Club」を新たに開始し、チャットアプリやAI画像認識アプリなどの制作に取り組んでいます。

全国から約440名が参加した Technovation Girls では、社会課題を解決するアプリを開発する小中高校生の世界への挑戦を130名を超えるメンターや企業・団体の皆さまとともに支援しています。

大学生・大学院生向けの Waffle College には101名が参加し、うちテックキャリアコースの修了者30名が21件のインターンシップ・内定を獲得し、40%の学生がリーダーシップ発揮意欲を向上させるなど、着実に成果を上げています。

2024年度は、教育と政策提言を軸としながらも、マルチステークホルダーで社会を変えていくアプローチを本格化させました。中高生・大学生に向けたプログラムでは、5つのデジタルコンピテンシーを定義し、ジェンダーに関する知識やAIリテラシーの向上なども含めた、包括的なデジタル教育を提供しています。

さらに外部の組織との連携を強化し、全国の各地域で持続可能な教育機会の提供体制を構築する取り組みも進めています。政策面では、AIとジェンダーギャップなどの新たな課題に対する価値観をどのように社会に広めていくかという観点からも模索を続けています。

さらに10年、20年と活動を続け、より大きな社会的インパクトを生み出していくために、今後も皆さまとともにテクノロジー分野におけるジェンダーギャップ解消を目指し、取り組んでいけることを心から願っています。

引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



NPO法人 Waffle 理事長
田中 沙弥果

Mission 私たちの使命

Unlock women's potential
and make an impact
in the world together.

女性の可能性を解き放ち、
ともに世界に影響を与える

Vision 目指す姿

Close the gender gap by
empowering and educating
women in the technology field.

テクノロジー分野の
ジェンダーギャップを解消する

Waffle の由来

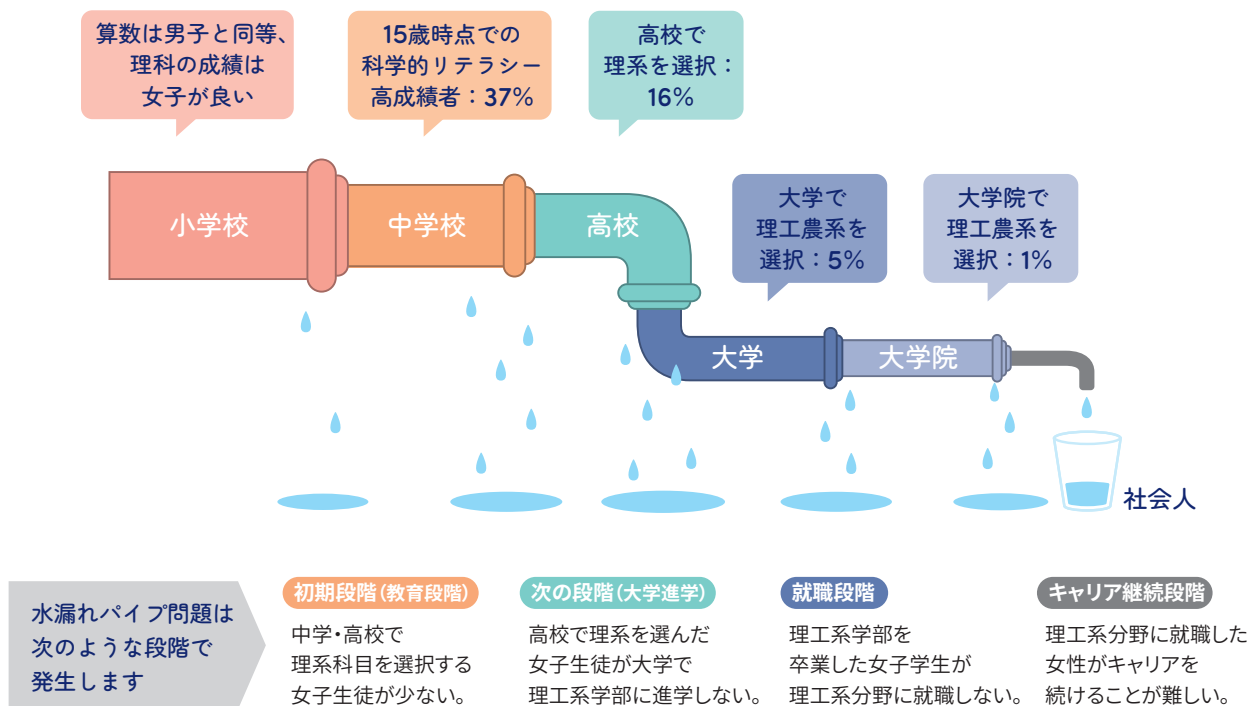
Women AFFection Logical
Empowerment

愛情深く、そして論理的に
女性をエンパワーメントしたい。
難しく捉えられがちなテクノロジーを、
お菓子のワッフルのようにポップに。
そのような想いで
Waffleと名付けました。

教育とエンパワメントを通じて テクノロジー分野の ジェンダーギャップを解消する

女子の理工系進路 水漏れパイプ問題

CHALLENGE



出典:PISA(2018)、TIMSS(2019)、内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局の資料をもとにWaffle作成

日

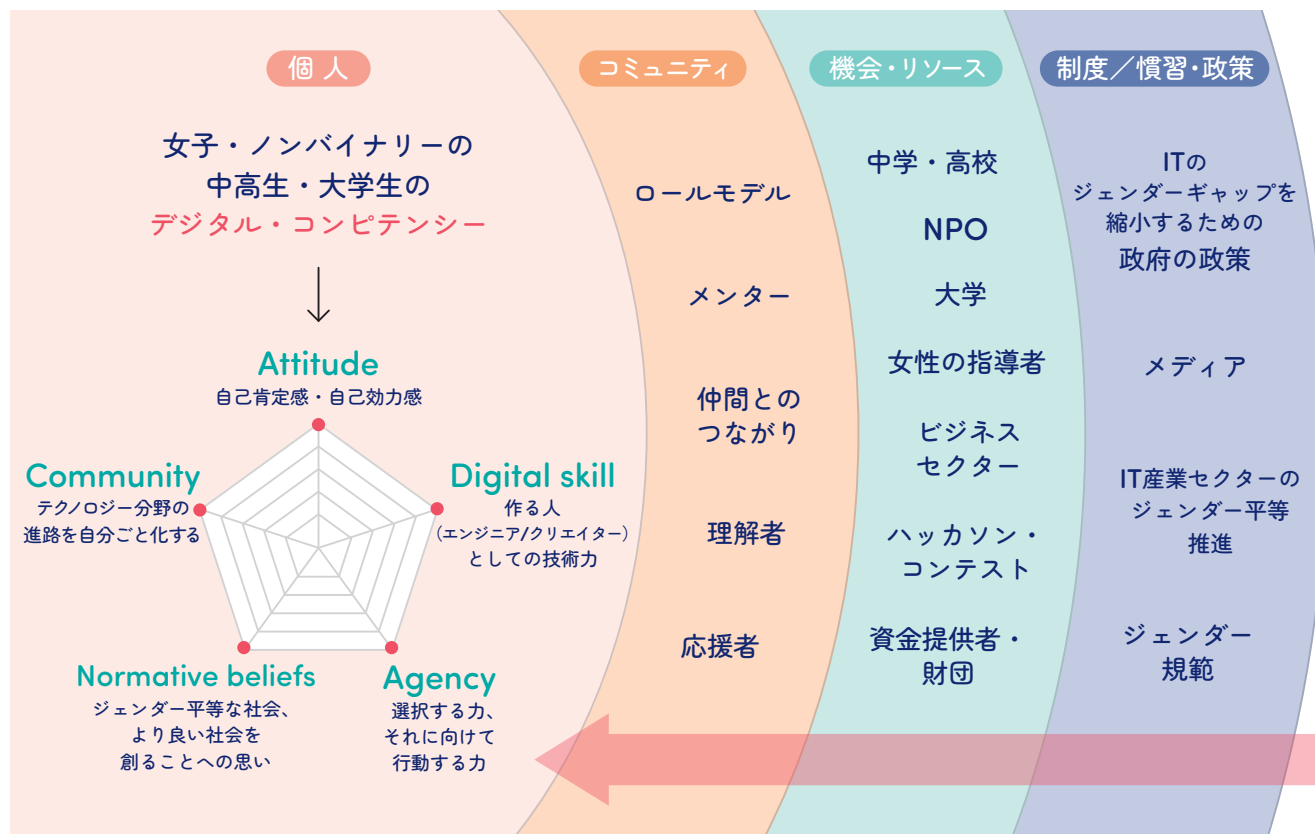
本は、OECD（経済協力開発機構）加盟国の中で、理工系学部に進学する女性の割合が最も低い国です。理工系分野における女性が進学や就職、キャリア形成の各段階で徐々に減少していくこの現象は「水漏れパイプ問題」と呼ばれます。パイプに流れ込んだ水が途中の穴で漏れ出し、最終的に目的地に届く水がほとんどなくなる様子を例えた名前です。

日本の女子の学力は国際学習到達度調査「PISA」でトップレベルであるにもかかわらず、工学分野の大学入学者に占める女

子の割合はOECD加盟国の中で最下位です。これは、理工系分野を進路やキャリアとして選びにくい社会構造が原因です。その中でも、特に情報工学・IT分野における女性の割合の低さは深刻です。AIやロボット技術の発展が進む現代社会において、この分野に女性をはじめとした多様な人材が参入することは非常に重要です。比較的高収入で、男女の賃金格差が少なく、リモートワークなど柔軟な働き方ができる分野に、より多くの女性とノンバイナリーが参入することで、経済的なエンパワメントを促進し、IT産業の多様性にも寄与すると考えられます。

全てのステークホルダーに アプローチをすることで 社会全体の構造を変える

HOW WE CHANGE?



What We Do

ジェンダーギャップが深刻な日本社会において、生徒・学生たちがデジタル社会に平等に参加できるように、プログラミング技術だけでなく、5つの要素を兼ね備えたデジタル・コンピテンシーを育む教育を提供しています。

制度／慣習・政策

政策の優先度をあげるための政策提言、世論形成

「骨太の方針」などに女性の理工系進路選択の予算増加を目指した提言を行うと同時に、IT/STEM分野のジェンダーギャップが大きな社会課題であるという認識をつくるための世論形成を行う

コミュニティ

IT技術を学ぶ女性やノンバイナリーを応援するコミュニティの形成

女性やノンバイナリーでプログラミングに興味がある仲間やロールモデルに出会える場所の創出を行う。また、IT分野を学ぶことを後押しする先生・企業・保護者を増やすことで、生徒・学生が自信を持って理工系を選択できるようにする

機会・リソース

他組織でのジェンダーに配慮した機会提供への働きかけ

Waffleだけではなく、他の企業や教育現場でジェンダーに配慮した教育や機会・リソース提供が行われるように連携・協力をする

個人

デジタル・コンピテンシーを身につけられる教育

Attitude : 自己肯定感・自己効力感
Digital skill : 「作る人(エンジニア/クリエイター)」としての技術力
Normative beliefs : ジェンダー平等な社会、より良い社会を創ることへの思い
Agency : 選択する力、それに向けて行動する力
Community : テクノロジー分野の進路を自分ごと化する

女

女子やノンバイナリーの中高生・大学生たちが自身の可能性を解き放ち、情報工学・IT分野を選択するためには、個人への働きかけのみならず、社会構造の変革が必要です。したがって私たちは中高生・大学生に対して教育を通じたエンパワメントを行うとともに、生徒・学生を取り巻く社会的・経済的なシステム全体を変える戦略を持つことで、

IT分野のジェンダーギャップに根本から変化を起こすことを目指しています。そのために私たちは4つのステークホルダーそれぞれに働きかけを行っています。個人への教育、それを応援する大人のコミュニティ形成、他組織への啓発、そして政府や世論形成です。これらを同時に進めることで社会全体のシステムを変えられると信じています。

Waffleの教育プログラム

EDUCATION PROGRAM

Waffleが教育事業で大事にしていること

私たちは、社会全体の仕組み・構造を変えるために、マルチセクターへの働きかけを同時並行で行う中で、以下の3つの点を大事にして教育事業を展開しています。

Outreach

地方の生徒・学生に情報と機会を届ける

- IT・デジタル産業は東京に極集中しているため、首都圏以外の学生が当該分野で働く技術者に会ったり、教育プログラムに参加したりする機会が限られています。
- そこで私たちは、首都圏だけでなく地方の生徒・学生にも機会を提供するために、地方自治体とのイベント共催や、地域の方との連携で、日本中の中高生・大学生へ参加を促しています。
- さらに、遠方に行われるイベントの参加者への交通費の負担や、パソコンの貸与、現地とオンラインのハイブリッドでプログラムなどを提供することで、全国の幅広い層の中高生・大学生に機会を届けています。

Skills & Mindset

プロダクト開発とAI活用を通じて、協働しながら挑戦する力とキャリアへの前向きな姿勢を育む

- 生成AIなどの技術革新により、IT・デジタル産業では単純なコーディング業務の自動化が進む一方で、創造性や問題解決力を活かしたプロダクト開発やAI活用の重要性が高まっています。
- 私たちは、中高生・大学生に向けて、基礎的なプログラミングからAIを活用したプロダクト開発まで、幅広いプログラムを提供しています。多様なバックグラウンドを持つ仲間とチームで協力しながら課題に取り組み、技術だけでなく対話力や協働する姿勢も育まれます。
- アイデアを形にする力や変化する技術環境への対応力を身につけ、「自分にもできた」という成功体験から自己効力感を高め、将来のキャリアに主体的に挑戦する姿勢とリーダーシップを育みます。

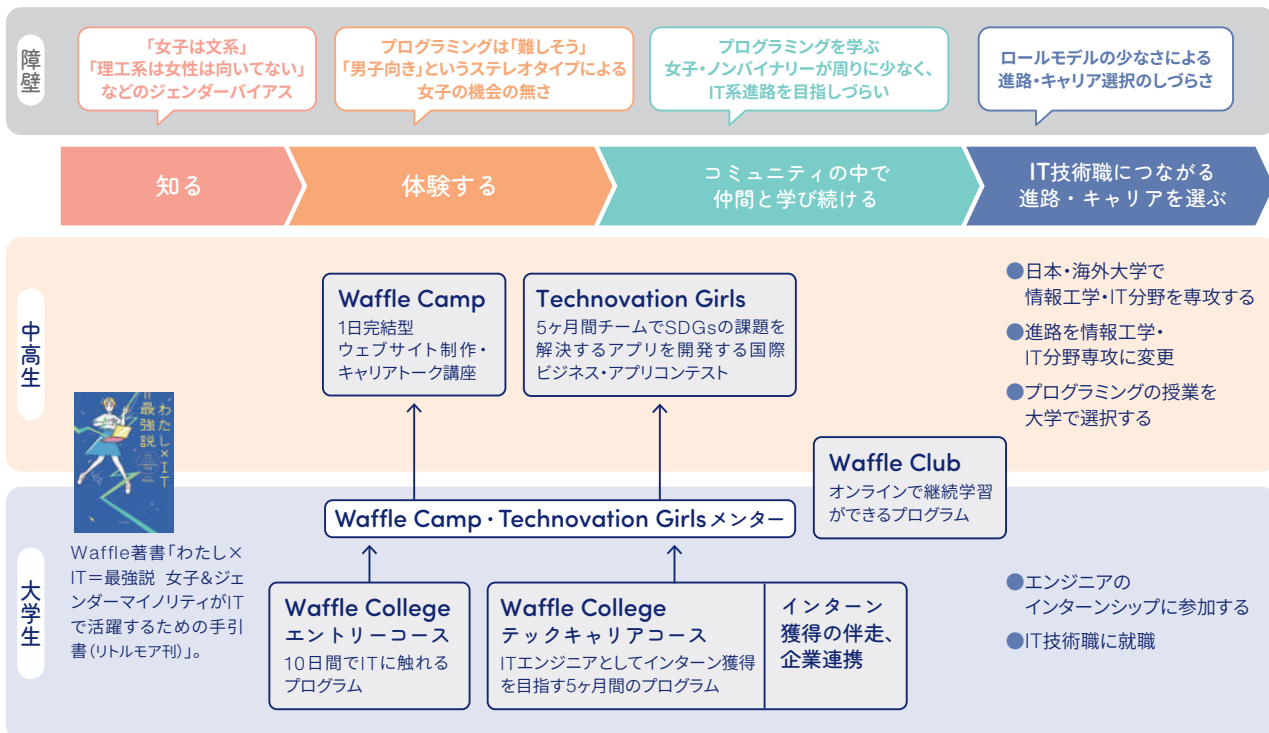
Environment

ジェンダー
トランスフォーマティブな
学びの環境・教材を用意

- 私たちは、学ぶすべての学生が自分の可能性を存分に発揮できるよう、ジェンダートランスフォーマティブ (gender-transformative) な学習環境の整備を目指しています。これは単なる性別への配慮にとどまらず、性別に関する不平等や固定観念そのものに挑戦し、変革を促す姿勢を意味します。
- 理数系分野の性別バイアスやステレオタイプを打破するため、生徒・学生との接する際の性別に基づく前提を排除した対応の徹底、スタッフへのジェンダー研修実施、女性やノンバイナリー講師の登用、教材へのジェンダー視点導入などを行っています。
- これらを通じて、教育のあり方そのものを問い直し、より公平で包括的な未来の実現を目指しています。

PROGRAM PIPELINE

私たちは、中高生から大学生までの女子とノンバイナリーが、ITに出会い、進路として情報工学やIT分野を選び、エンジニアとして羽ばたくまでを切れ目なく支えるプログラムを展開しています。



2024年度の ハイライト

Waffleの1年間の活動・成果について、振り返ります。

4月

世界経済フォーラム
「ヤング・グローバル・リーダーズ」に理事長 田中が選出

Waffle College
第3期エントリーコース(4月度)スタート(詳細はP.11)

グローバルスタートアップで活躍するエンジニアのキャリア
イベントを開催

日米のテクノロジーに関心のある女性・ノンバイナリーの学生の
情報共有の場として開催

オフィス移転(東京都渋谷区)

5月

Waffle Festival 2024 /
Technovation Girls 2024
日本公式ピッチイベント開催

わたしの未来は、テックとと
ともに、手に入れるをテーマに、
中高生・大学生を対象とした
テック・カンファレンスを開催



6月

日本政府の骨太の方針2024・女性版骨太の方針に「理工
系分野の女性増加に向けた取り組み」が明記(詳細はP.16)

清泉女学院中学高等学校
(神奈川県鎌倉市)でプログ
ラミング/理系進路・キャリ
ア特別講義を開催(全3回)



7月

Waffle Camp 2024
スタート(詳細はP.7)

全国6都市にて117名の中高
生が参加し開催

Waffle College 第3期
エントリーコース(7月度)
スタート



8月

Waffle Club「Thunkableを使って、自分の推しキャラを
使ったオリジナルチャットアプリを作ろう!」を開催

過去のプログラム参加者を中心に、継続的な学びや同世代との
交流の機会の場として実施

Waffle College テックキャリアコーススタート

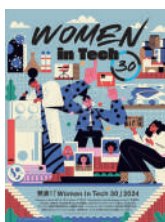
テックキャリアを築きたい意欲的な受講生35名が参加(詳細
はP.11)

9月

Forbes Women in Tech TOP30
(テクノロジー領域で世界を変える女性
30人)発表

Waffleが特別協力し、国内で初実施

長崎県五島市
「子どもジョブチャレンジ」でAI体験
ワークショップを実施



10月

山手線沿線一周を巡る
「東京ヤマソン」に参画
(詳細はP.18)

Technovation Girls
2025スタート



Waffle College テックキャ
リアコース交流会を開催

キンドリルジャパン株式会社
にて、受講生と同社社員によ
る交流会を実施



Technovation Girls
メンター経験者向けワー
クショップ&交流会を開催

Technovation Girls 2024
World Summitで
「SpesDojo」が
Technology Awardを受賞

CoderDojo 瑞穂がサポー
トする中学生チームが、
Junior部門のファイナリス
トの中から Technology
Awardを受賞



11月

Waffle College 卒業生
交流イベントを開催

フリー株式会社にて Waffle
College 卒業生の交流会を
実施



2025-2030 STRATEGIC
PLAN(2030年に向けた戦
略的計画)を発表

12月

「Technovation Girls 2025」日本プログラムスタート

1月

気仙沼市内の小学生を対象
にプログラミング x ものづく
りワークショップを開催



アメリカ国務省「International
Visitor Leadership Program
(IVLP)」参加報告会を開催

ディレクター森田が参加した
同プログラムのSTEM分野
におけるDE&I促進に関する
取り組みを報告



Waffle College テックキャ
リアコース 修了式開催

2月

Waffle Club「ホームページ
を作ったり、半導体業界で働
く女性のお話を聞いたりし
よう!」を開催



気仙沼市立月立小学校でプ
ログラミング体験ワークショ
ップを実施

3月

Waffle アニュアルミーティングを開催

Waffle Camp

Waffle Campは、女子&ノンバイナリーの中高生を対象に、ウェブサイト制作を通じて、IT・理系への苦手意識をなくし関心を高めるためのプログラムです。スキルの習得だけでなく、IT業界で働く女性のキャリア講演も組み込んでいるのが特徴です。

〔開催概要〕

開催期間 2024年7月～2024年8月

参加費 無料

開催都市 全国6都市（千葉県、千葉県印西市、新潟県長岡市、福井県、長野県上伊那地域、兵庫県豊岡市）
※現地とオンラインのハイブリッド開催は6自治体

参加対象 開催都市に在住・在学的女子およびノンバイナリーの中学生・高校生

主な内容 HTML/CSSを使ったオリジナルのウェブサイト制作、IT業界で働く女性によるロールモデル講演



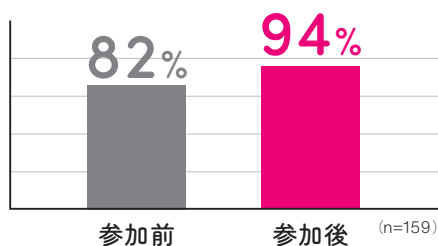
参加者の変化

参加者数

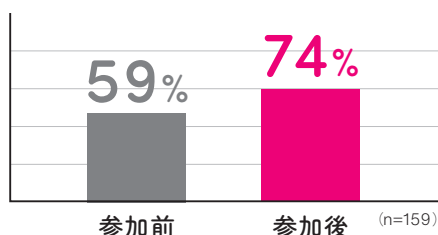
117名 参加

1自治体あたりの参加者数が、
9.3人（前年度）から19.8人に増加。

プログラミングへの
興味関心



理系学部や
理系関連への興味



参加者の感想

これからの自分の将来のヒントになるような内容でした！

丁度文理選択で悩んでいたので参考になった

今日のこの体験を通して、プログラミングが身近なものだとわかったし、難しくても面白いものなんだとわかりました！！とても楽しんで体験できました！

わからないことを質問したら、調べて丁寧に教えてくださった

作成に関するアドバイスをたくさん教えてくれた

プログラム総括

●本年度は、三菱みらい育成財団の助成を受け、地域や経済的な格差により理系体験の機会が限られた女子中高生を対象に支援を実施しました。昼食や交通費の支給など、参加のハードルを下げる工夫を行い、117名が参加。自治体からの協力を得たことで、1自治体あたりの参加者数は昨年度の9.3人から19.8人へと倍増し、地域での関心の高まりが見られました。

●また、一部の自治体ではパートナー企業のオフィスを会場とし、社会人との接点を通じてIT分野でのキャリアをより具体的にイメージできる機会となりました。

●参加者が継続して学ぶ機会として、オンライン講座「Waffle Club」を直後に実施し、25名が参加しました。アンケート結果では、ほぼ全員が「今後もアプリづくりを続けたい」と回答しており、学びの継続につながる成果が得られています。

Waffle Campの
模様はこちらの
動画からご覧ください



Waffle Club

プログラミングや理系進路に関心のある女子・ノンバイナリー中高生のためのオンライン・クラブ活動。
気が向いた時だけでも継続的にでも、自分のペースで参加可能で、テクノロジーに出会った中高生が
「わたしにもできるかも」と思えるきっかけを少しずつ重ねていける場です。

〔開催概要〕

開催期間 2024年8月～2025年2月（計4回）

参加費 無料

参加対象 女子およびノンバイナリーの中学生・高校生（Waffleの各プログラム参加者、新規参加者）

主な内容 AIやアプリ開発など、多様な技術に触れるとともに、幅広いロールモデルと出会えるオンラインプログラム。

8月：Thunkableを使って、自分の推しキャラを使ったオリジナルチャットアプリを作ろう！

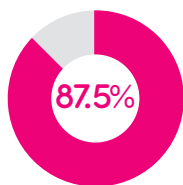
10月：推しだけをピックアップ！AIとつくる推し認識ツール

12月：オリジナルのチャットアプリを作ってみよう！

2月：ホームページを作ったり、半導体業界で働く女性のお話を聞いたりしよう！

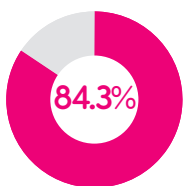
参加者の変化

継続的なアプリづくりへの意向



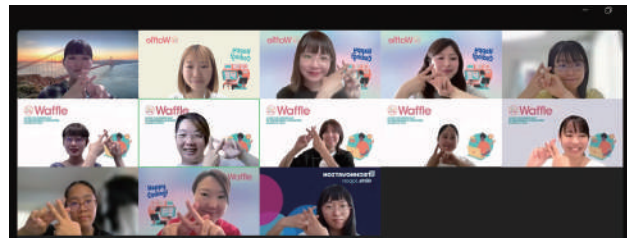
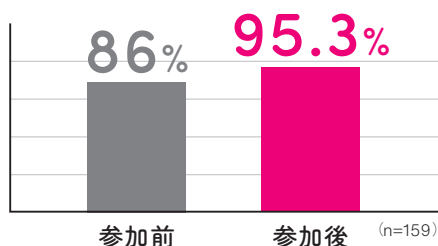
全体の87.5%が当てはまる
（やや当てはまる、とても当てはまる）と回答

プログラミングスキルの自信の向上



全体の84.3%が当てはまる
（やや当てはまる、とても当てはまる）と回答

理系学部や理系関連
の進路への関心度



実際にAIを使って
プログラミングでき
て理系分野の理解が
深まった

この経験を経て、ホームページを
もっと作り込んでいきたい

参加者の感想

理系よりも文系に行ってみたく
思っていたのですが、今回のトークイ
ベントで先輩方のお話を聞いて、理系
に行くの選択肢の1つとして考える
ことができた

初めてホームページを作って、
HTMLとCSSの仕組みが分かっ
て実践できたのでとてもよかった。
今後この発展編を学びたい

アプリ制作体験、トーク
セッションと、充実した
2時間だった

プログラム総括

● Waffle Clubは、Waffleの各プログラムへ参加した後に、その後の継続的な学びや同世代との交流の機会が欲しいという声に応える形で設置されました。無理なく参加できるよう休日の数時間、オンラインでハンズオン体験ができるよう設計し、多くの成果を上げることができました。

● プログラム参加者の87.5%が継続的な学習意欲を示し、84.3%がプログラミングスキルの自信の向上を実感しています。理系進路への関心度も9.3ポイント向上しました。

● 参加者からは、「HTMLについてもっと学んでみたい」「継続的にアプリづくりをしたい」といった具体的な学習意欲や、「理系を選択肢の一つとして考えることができた」という進路への前向きな変化が報告されました。

● 新しいことに一歩踏み出したいときの出発点として、また安心して戻ってこられる居場所として機能し、参加者同士が互いを応援し合いながら、気づきや関心を共有することで自然と力が湧いてくるような体験を届けることができました。

Waffle Clubの
模様はこちらの
動画からご覧ください



Technovation Girls

Technovation Girlsは、米国・STEM系NPO「Technovation」が主催する、次世代の女性IT起業家の育成を目的とした、世界最大級のテクノロジー教育プログラムです。Waffleは日本公式アンバサダーとして、日本国内からの出場チームの支援を行っています。

〔開催概要〕

開催期間 2024年12月8日～2025年6月21日
2025年9月に米NPO・TechnovationによるWorld Summitが開催予定(オンライン)

参加費 無料

後援 文部科学省、アメリカ大使館(日本公式ピッチイベント)

参加対象 女子およびジェンダーマイノリティ*の中高生

主な内容

- ・アプリ開発講座(7日間)
- ・ビジネス開発講座(4日間)
[講師] 株式会社クラフター 創業者兼代表取締役社長 小島 舞子氏
株式会社Bloom&Co 取締役CTO 増井 雄一郎氏
- ・日本公式ピッチイベント
日本独自で開催するピッチイベント。1次審査を経てファイナリスト10組が、2025年6月21日に東京にて発表。
- ・海外(ケニア)の参加者との交流会
開発中のアプリについてお互いにフィードバックをし合う場を提供。
- ・進路相談・キャリアイベント
大学生・社会人メンターのトークセッションを通じて、参加者の進路選択の支援となる機会を提供。

*米国・「Technovation Girls 2025」の募集要項に沿って、「Technovation Girls」に興味のあるトランスジェンダーの方はもちろん、ノンバイナリーやジェンダー・ノンコンフォーミングを自認する方で、女性向けの環境で学習したい方を対象としています。



参加者の感想

アプリの開発がこれからのキャリアにおいてとても良い経験になった

チームのみんなと一緒に同じ方向に向かってプログラムを組んだりしていくのが楽しかった

今後もアプリを構築してより本格的なものを作りたい

プログラミングやマーケティングなど普段生活しているだけでは感じないこともたくさん学べてよかった

各メンター・審査員の方々同様に、多くの人のために貢献できる人になりたいと思った

参加者の変化

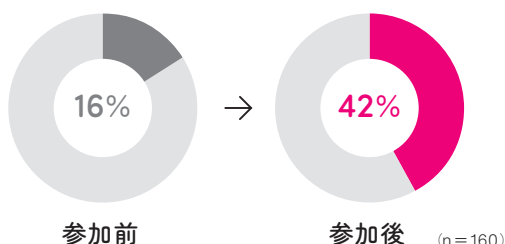
参加者数

全国44都道府県から

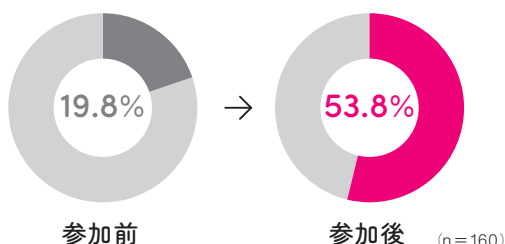
440名

88チームがプログラムを完走。
7チームが世界大会のセミファイナル、
うち1チームがファイナリストに選出。

プログラムの
スキルの自信の向上



ビジネス構築の
スキルの自信の向上



プログラム総括

● 2025シーズンは参加者の人数、チーム数が過去最高の数字となり、年々Technovation Girlsが日本全国に広まっていることを感じます。

● 初めてピッチ内にチャレンジステージを新設。1次予選で11~20位だった参加者を東京へ招待し、対面発表の場を持ちました。その結果、オーディエンスの前にアプリをプレゼンした学生の人数が去年の倍となり、多くの参加者が自信をつけることができました。

● 今年、文部科学大臣賞を受賞した学生の中には、高校では文系だったものの、この体験を通して情報系学部への進学を模索し始めたという連絡をもらっています。高校2年生からの参加は学校生活との両立が容易ではありませんが、最終的な大学進学を見据える際に当プログラムが大きな影響を与えていることもわかり、今後このようなストーリーを中高生に伝えていくことの重要性を痛感しています。

Technovation Girlsの
模様はこちらの
動画からご覧ください



Waffle College

Waffle Collegeは、主にIT未経験の大学生を対象とした、ITエンジニアを目指すテックコミュニティです。プログラミング初心者向けの「エントリーコース」とIT技術を本格的に学び、IT企業でのインターンシップへの参加を目指す「テックキャリアコース」が用意されています。

〔開催概要〕

開催期間 エントリーコース：2024年4月26日～5月5日・
2024年7月5日～7月15日（約10日間ずつ2度開催）
テックキャリアコース：2024年8月～2025年1月（約5ヶ月）

参加費 無料

参加対象 国内外の大学・大学院・短期大学・高等専門学校・専門学校などに在学中の18歳以上の女性またはノンバイナリーの学生

主な内容

・エントリーコース

ブロックプログラミングツール「Thunkable」を使用したプログラミングの基礎講座、アプリ開発／ジェンダー講座、ビジネス講座／オフィス見学、交流会／Waffle College過去参加者によるロールモデル講演

・テックキャリアコース

Pythonを用いたプログラミング講座、アプリ開発／コンピュータサイエンスやAIの基礎講座／ジェンダー講座、ビジネス講座、キャリア講座／グループで課題に取り組むプロジェクトウィーク／卒業ハッカソン



不安がたくさんありましたが、それを上回る素晴らしい経験ができ、ITに関する知識という「新たな誰にも奪えない私だけの財産」を得ることができた

プログラミングだけではなく人間力やリーダーシップ力、言語化能力も高められた

Waffle Collegeというコミュニティが一番自分らしさをだせる場所だと感じた

参加者の感想

自身のキャリアを見つめなおすことができ、現在では志望していたITインフラの会社から内定をいただくことができた。今後もWaffleで得た経験を生かして、自律したキャリアを形成していきたいと思う

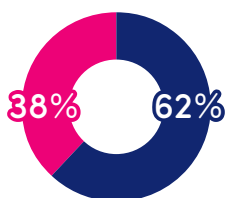
大学生という、社会に出る前の最後の限られた時間の中で、この組織と出会えたこと、ここで学べた経験が、自分のこれからの人生の糧になると思う

参加者の変化

参加者数

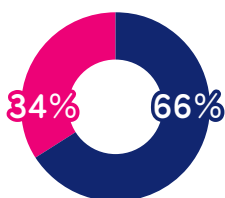
のべ**101名**参加

エントリーコース、テックキャリアコースの合計



一都三県以外 | 一都三県

エントリーコース
一都三県外（*）：38%
一都三県：62%
（81.2%が文系学部）



一都三県以外 | 一都三県

テックキャリアコース
一都三県外（*）：34%
一都三県：66%
（57.1%が文系学部）

* 海外含む

合計21件のインターンシップ・内定を獲得

テックキャリアコースを修了した30人が、IT職種、特にソフトウェアエンジニアを中心に、インターンシップ14件（株式会社サイバーエージェント、株式会社リクルートホールディングス、株式会社メルカリ、株式会社NTTデータ信越など）、内定7件の合計21件を獲得しました。

*2025年6月現在

40%の学生がリーダーシップ発揮意欲を向上

プログラムを通じて、修了した30名中12名（40%）が「自分は様々な活動においてリーダーになる権利がある」という質問への回答数値を向上させ、自分らしいリーダーシップへの自信を深めました。

プログラム総括

●エントリーコース

10日間で「テックキャリア」「エンパワーメント」「リーダーシップ」を育むプログラムを実施しました。今年度は特に「AI」「キャリア」「リーダーシップ」に関する学びを強化しました。

●テックキャリアコース

主な言語をPythonに変更し、ブログ構築に取り組むPBL形式の授業を実施しました。AIの授業も新設し、ChatGPTのプロンプト設計やOpenAI APIの演習を行いました。学生の声を反映し、キャリア系のワークショップも多数開催しました。

●成果

卒業ハッカソンではOpenAI APIを活用したアプリが多数発表されました。スポンサー企業を含む多くの企業のインターンや選考に参加する学生も見られました。

2024年度の新たな取り組み

地域に根ざした体験を通じてテクノロジーの楽しさと学びの姿勢を育むワークショップや、多様な働き方やキャリアパスを知り将来を考えるきっかけとなる Waffle Festival など、新たな取り組みを実施しました。

1. 地方でテクノロジーに触れる機会の創出

五島市（長崎県）や気仙沼市（宮城県）で、小学生向けの体験型プログラミング・AIワークショップを開催しました。

普段は中高生や大学生を対象とする Waffle ですが、今回は自治体や企業、団体など多様な方たちとの共同で、より早い段階からテクノロジーに触れる機会を提供することで、地域に根ざした新しいアプローチに挑戦しました。



<長崎県五島市>

9月に五島市で実施したワークショップでは、Code.orgの「AI for Oceans」をベースに、「AIを使って五島の海をキレイにしよう!」をテーマに、AIに海の生き物とゴミを見分けさせるプログラムを体験しました。五島のすばらしい自然に結びつけて、AIの学習データの重要性を短時間で学べる内容としました。集中して取り組む小学生たちの真剣な表情が印象的でした。



<宮城県気仙沼市>

気仙沼市では、一般社団法人 Arc & Beyond との協働で、プログラミングツール「MESH」を活用したワークショップを合計3回開催しました。2月には市立月立小学校で授業の時間をいただき、低・中学年は「放課後を楽しむ発明」、高学年は Waffle が新しく開発した「怪盗を捕まえる!」に挑戦しました。子どもたちはチームで活発に意見を交わしながら独創的なアイデアを形にしていきました。

2. ITの進路を知る・体験する・自分の進路を考えるリアルイベントの開催

<Waffle Festival 2024>

Waffle Festival 2024 を東京・原宿とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で実施し、初めてリアル会場を設けました。

全国28都道府県と海外（アメリカ・マレーシア）から女子およびノンバイナリーの中高生・大学生が参加し、IT分野の多様性を知り、自分の興味や適性を発見する機会となりました。

[開催概要]

開催期間 2024年5月25日(土)～5月26日(日) 10:00-17:00
(1日目は、Technovation Girls 日本公式ピッチイベントを開催)

場所 WITH HARAJUKU (東京都渋谷区) + オンライン

参加費 無料

参加対象 女子およびノンバイナリーの中高生・大学生
(高専生、専門学校生、大学院生を含む)

テーマ 「私の未来は、テックとともに、手に入れる」

主な内容

- スパツニ子!氏による基調講演「テックとともに、未来を手に入れよう」：メディアアーティストとして活躍するスパツニ子!氏が、テクノロジーと創造性の関係について語り、参加者に新たな視点を提供
- 現役女性ITエンジニアによるキャリアトーク：IT業界で活躍する女性たちが実体験を交えながら多様なキャリアパスを紹介
- 「Waffle College」修了生によるトークセッション：Waffleの大学生向けコミュニティ「Waffle College」修了生が自身の成長体験を共有
- 「パソコンでペンを使わず絵を描こう!」プログラミングワークショップ：コーディングを通じて創作活動を体験し、プログラミングの楽しさを実感
- 「気づこう、無意識の思い込みや偏見のもしやもや」ワークショップ：ジェンダーに関する固定観念について参加者同士で議論し、気づきを得る場
- 「身近な課題をITで解決!アイデアワークショップ」：日常の問題をテクノロジーで解決するアイデアを考える体験型セッション
- 米国大使館による留学個別相談ブース、他



Waffle Festivalの
模様はこちらの
動画からご覧ください



参加者 ストーリー

Unlock women's potential
and make an impact
in the world together.

私のWaffle JourneyとNext Chapter

Waffleとの出会いが、人生をどう変え、そして、これからどこへ向かおうとしているのか。プログラムを通じて大きく成長を遂げたという参加者、支援してきた社会人メンターの方に、お話を伺いました。

本記事は、2025年5月に開催されたWaffleの5周年記念イベントで開催されたトークセッションの様態を一部抜粋し、インタビュー形式でお届けします。

中学1年生から3年間
Technovation Girlsに参加



米田 和叶さん

神山まると高等専門学校
在学中（1年）

大学時代に
Waffle Collegeに参加



永井 夕貴さん

ITエンジニアとして
就職予定



齋藤 真希さん

Technovation Girls
社会人メンター



古瀬 麻衣子

NPO法人Waffle
Technovation Girls
マネージャー

Waffleとの出会い

— Waffleが皆さんの人生にどのような変化をもたらしたのか、そのリアルなジャーニーをお伺いします。Waffleと出会う前はどんなだったのでしょうか？

米田：初めてWaffleのプログラム「Technovation Girls」を知ったのは、小学6年生の時です。父がXで見つけて「面白そうだよ」と。以前からプログラミングには興味があって、父にScratchの教室に連れて行ってもらっていました。でも、教室に行くとなりの子は私一人ということがほとんどで、不安や疑問を感じていました。父は、英語が得意な私に、もう一つ武器を持たせてあげたいと思っていたそうです。近所に外資系IT企業で働く方がいて、時間や場所に縛られずにグローバルに活躍している姿を見て、これからの時代は「英語×IT」だと思ったそうです。

永井：私は大学で文学を専攻していて、ITとは全く無縁の世界にいました。でも、子供の頃の夢はエンジニアだったんです。就職活動が始まって、その夢を諦めきれなくて。「文系の私には無理だ」「今からじゃ遅い」という思い込みで縛られて、一歩が踏み出せずにいました。そんな時に、Waffle Collegeの1期生だった友人が「こういうのがあるよ、行ってみない？」と声をかけてくれたのがきっかけです。

齋藤：私は、Waffleで働く親友（注：ディレクター 森田 久美子）から「ボランティアが足りないから手伝って!」と頼まれたのが始まりです（笑）。正直、最初は「ボランティアで参加者の役に立とう」という「与える」気持ちでした。でも実際に参加してみたら、私の方が学びを得るような経験でした。感銘を受けて、そこから深く関わらせてもらうようになったんです。

衝撃と発見、リミッターが外れた瞬間

— Waffleのプログラムで印象的だった体験があれば教えてください。

永井：衝撃だらけでした（笑）。技術面では、Waffle Collegeで初めてプログラミングに触れて、「変数って何？」というレベルからのスタートでした。これが私のラストチャンスだと思って、必死に食らいつきました。最終的に自分の書いたコードが動いた時の感動は、今でも忘れられません。「私にもモノが作れるんだ!」という、人生で初めての感覚でした。

それ以上に衝撃だったのがキャリア面での気づきです。エントリコースで、ゲスト講師の方から「あなたが自分の可能性に蓋をしてしまうのは、ジェンダーバイアスの影響かもしれない」という話を聞いたんです。その瞬間、雷に打たれました。これまで「文

系だから」「女子だから」と自分で自分の限界を決めていたのは、社会からのすり込みだったのかもしれない。と。その時、心の中で何かが弾けました。「もうリミッターを外そう。自分のやりたいことに正直になろう」と決意できたんです。

米田：私は、Technovation Girlsに3年間参加して、プログラミングはもちろん、ビジネスプランを考えたり、市場規模を調査したり、発表のための動画編集をしたりと、本当にたくさんのことを学びました。特に大きかったのは、ケニアやメキシコなど海外の参加者とオンラインで交流できたことです。同じように社会課題を解決するアプリを考えているのに、彼女たちが着目するのは「農業×IT」だったりして、文化や環境が違えば課題も全く違うんだと知りました。

その経験が自信になって、今は自分が参加しているボランティア活動のために、自分でアプリを作って課題解決に挑戦しています。Technovation Girlsに参加する前は、ただ「プログラミングって面白そう」くらいだったのが、「自分で課題を見つけて、自分でプロダクトを作って解決できるかもしれない」と思えるようになったのが、一番の変化です。

支える側へのエンパワーメント、大人たちも変わっていく

— Waffleは、支える側の大人たちもエンパワーされているのが特徴です。メンターである齋藤さんは、参加してどのような変化がありましたか？

齋藤：想像以上の変化でした。メンターとして参加者と接する中で、私自身の固定観念が打ち砕かれたんです。社会人として長年働いていると、どうしても「こうあるべきだ」「このやり方が効率的だ」という自分なりの型ができてきます。でも、彼女たちは全く違う。私が一番驚いたのは、すさまじいポテンシャルと、土壇場での爆発力です。

提出物の締め切り1週間前になっても資料が真っ白で、「これはもう間に合わないから、クオリティを下げてでも提出しよう」と現実的な判断をしかけたんです。でも彼女たちは「やります！やり方が分からないだけなので教えてください！」と。そこから数日間、夜遅くまで一緒に作業して、見事にやり遂げたんです。その姿を見て、大人の経験則や物差しで、彼女たちの可能性に蓋をしてはいけないと、心から反省しました。

— まさに、教える側が教えられる体験ですね。

齋藤：彼女たちの「やりたい」という純粋な情熱に触れて、「私ももっと自分のやりたいことに挑戦していいんだ」と背中を押されました。また、普段の仕事では関わることのない他社のエンジニアの方や、和叶さんのように全く違う視点を持つ方と深く関わることで、自分の視野がぐっと広がりました。会社という枠組みを超えて、一人の人間として「社会のために何ができるか」を考えるようになったんです。彼女たちの未来をサポートすることが、結果的に自分の未来を豊かにしてくれる。Waffleの活動がもたらしてくれた、私にとって最大のエンパワーメントです。彼女たちの情熱に、私の方が完全に力を与えられました。



ネクストチャプター、私たちが創る未来

— 皆さんのネクストチャプター（今後の夢や野望）を教えてください。

米田：私は今、高専のロボコンチームで、子どもたちにプログラミングの楽しさを伝えるアウトリーチ活動をしています。将来的には、「IT×グローバル×起業家精神」を掛け合わせて、自分で何でも作って解決できる人になりたいです。

永井：私には野望が2つあります。1つは、子どもの頃からの夢だった「社会を支えるエンジニア」になること。そしてもう1つは「女性リーダー」になることです。Waffleの活動で出会った、いきいきと働く女性リーダーたちの姿が、私のロールモデルです。

齋藤：私は、日本を、そして世界を変えたいと思っています。そのためには、もっと偉くならないと(笑)。米田さんや永井さんのような素晴らしい次世代が、何の障壁もなく自由に羽ばたけるような社会を作ることが、私たち大人の責務だと思っています。

Waffleが目指すのは、まさにこのようなエンパワーメントの連鎖です。一人の少女が勇気を出し、一人の大人がそれを支え、その輪がやがて社会全体を変える力になっていく。この5年間で生まれた無数のジャーニーが、次の5年、10年でどんな未来を創り出していくのか、楽しみでなりません。

Waffleをサポートしてくださる 企業からのメッセージ

サポーター企業 1

キンドリルジャパン株式会社

<https://www.kyndryl.com/jp/ja>



松山 亜紀 氏

キンドリルジャパン株式会社
Social Impact (社会貢献) 担当部長

世界最大のITインフラストラクチャーサービスプロバイダーであるキンドリルの日本法人であるキンドリルジャパン株式会社(以下キンドリル)。「教育」「環境」「インクルージョン」を軸とした社会貢献活動を展開し、Waffleとさまざまな取り組みを推進していただいています。



Waffleとの協働のきっかけは、米国・Kyndryl, Inc. がグローバルでの社会貢献活動の一環として進めている、世界最大級の慈善団体であるUnited Way Worldwideとの連携にあります(*)。STEM教育のテーマで各国の課題に即した支援先を選定する中で、パートナーとしてWaffleを推薦されました。日本のSTEM分野のジェンダーギャップという課題に取り組む意義深い活動として評価されたことが背景にあります。

Waffleとの連携で最も意義を感じているのは、生み出そうとしているインパクトです。単なる教育支援にとどまらず、ジェンダーギャップを日本社会の構造的な課題として認識し、骨太の方針をはじめとする政策提言も行いつつ、実際に自分たちでも学生を育成をするという、政策提言と教育を両輪で展開するユニークなポジショニングだと思います。単なる助成先ではなく、社会変革のパートナーとして一緒にできることに意義を感じています。

キンドリルの従業員も、キャリア講演やメンタリングという形で、たくさんの学生と接する機会をいただいており、企業のリソースを活かして多面的な支援をさせていただける点もありがたく思っています。

学生の皆さんとお会いしてお話を聞くと、皆さん迷われてもいるけれども、前向きさを感じています。自分の将来を切り拓きたいという熱意が感じられます。例えば、質問が途切れなかったり、少しでも学ぼうと食いついてくるようなところもあって、従業員も刺激を受けているようです。

従業員にとっては、次世代の育成に貢献すると共に、自分自

身の視野を広げたり、キャリアの棚卸しをしたりする機会になっているようです。自分自身の個人的な体験を話すことで、学生から反応があったり、元気をもらったり、自分にも社会に貢献できることがあると思えるという、すごくいい場になっていると思います。

ある文系の大学生で、ITエンジニアのキャリアを諦めていた学生がいました。その方が私たちが支援しているWaffle Collegeを通じて、ものづくりの楽しさや女性IT技術者との出会いを経験し、自分の道を見つけることができました。まさに、Waffleの目指す姿を体現するものだと感じました。そして、「社会を変えるエンジニアになりたい」という想いを持って、私たちの会社のことも知ってもらい、ご縁があって採用面接にご応募いただいたのも非常に嬉しかったです。単なる教育支援を超えた、企業とNPOとの連携による好例だと思います。

2025年度は、Waffleとともに地方の女子学生へのアウトリーチなど、都心に集中しがちなリソースをさらに広げる取り組みに力を入れていきたいと思っています。キンドリルは全国に事業所があるので、東京だけでなく、地域でテクノロジーに関わる人たちを増やすことは非常に意義があります。また、AIやサイバーセキュリティなどのスキルギャップの解消や次世代の育成というところにも、取り組んでいきたいと思っています。

最後に、皆さんの好奇心と情熱が、未来のテクノロジーを形作ります。自分を信じて、一歩踏み出してください。私たちは、あなたの挑戦を全力で応援します。そして、いつか一緒に社会を支える技術を創る仲間として出会うことを楽しみにしています。

(*) <https://waffle-waffle.org/2024/08/27/kyndryl/>

Unlock women's potential
and make an impact
in the world together.

サポーター企業 2

株式会社セールスフォース・ジャパン

<https://www.salesforce.com/jp/>



大橋 尚美 氏

株式会社セールスフォース・ジャパン
ソリューション統括本部
Specialist & Architect 本部
Technical Architect & Security
統括部 統括部長

世界No.1のAI搭載顧客関係管理(CRM)ソリューションを中心としたクラウドベースのソフトウェアを提供する企業である株式会社セールスフォース・ジャパン(以下Salesforce)。統合型社会貢献モデル「1-1-1モデル」(株式の1%、就業時間の1%、製品の1%を社会に還元する取り組み)でも知られており、Waffleの活動を積極的に支援してくださっています。



W

affleとSalesforceとの取り組みの始まりは、1-1-1モデルを活用し、当社の女性エンジニアがWaffleのプログラムにメンターとして参加したことでした。その他にも、Salesforce Women's Network(当社の従業員リソースグループ)がボランティアでキャリアトークとオフィスツアーを企画し、中学生から大学生の皆さんに参加いただいています。

Salesforceでは、誰もが平等に質の高い教育にアクセスでき、将来の選択肢を広げられる豊かな社会の実現を目指し、キャリアにつながる教育機会やメンタリングを通じた社会とのつながりを育む団体を支援しています。

私は、前回の「Technovation Girls 日本公式ピッチイベント」にて審査員を務めさせていただき、さまざまな視点から社会課題に挑む参加者のアイデアに感銘を受けました。技術力に加え、課題の本質を的確に捉えた提案と参加者の皆さんの情熱は、若い世代の可能性を強く感じさせるものでした。

特に印象的だったのは、フィードバックを受ける際に、真剣に「うんうん」と頷きながら積極的に耳を傾ける参加者の皆さんの姿でした。また、結果発表で喜びを爆発させる姿からは、それまでの苦労や達成感がひしひしと伝わり、とても清々しい気持ちになりました。自分たちのアイデアが社会に役立つ可能性を感じ、未来への希望を持つ様子から、多くの可能性を感じました。

社内からも「発表者の熱意と意気込みに圧倒された」「励まし合いながらギリギリまでプレゼン練習をしている姿を見て、胸が熱くなった」「ジェンダーに関わらず、若い世代にはスクスクと伸びてほしい」といった声が寄せられています。

若い世代の挑戦と成長を間近で見守り支援することは、私にとって大きなやりがいであり責任でもありました。また同時に、自身も新たな視点や学びを得る貴重な経験となりました。このような取り組みは、次世代の才能を育むだけでなく、社会全体のイノベーションにも大きな価値があると感じています。

私自身もSTEM分野におけるジェンダー平等への意識が高まり、これまで自覚してこなかったバイアスや社会の構造に気づかされる場面が多くありました。支援する立場でありながら、多くの学びを得る貴重な経験となりました。

今後も、Waffleの取り組みを積極的に支え、STEM分野における次世代のリーダー育成に貢献していきたいと強く願っています。

最後に、STEMの世界は広く、さまざまな関わり方や働き方があります。いまは自分の興味や得意なことを活かせる場所が見つからなくても、可能性を狭めずに視野を広げていくことで、思いがけない出会いや道が開けることもあります。完璧なロールモデルがいなくても、「この考え方が好き」「あの人の働き方は真似してみたい」と思える“パーツモデル”は、意外と身近にいるかもしれません。自分に合う部分を取り入れて、自分のペースで、興味のあることに挑戦してみてください。心から応援しています。

政策提言

政策提言への取り組み

現場から政策へ——教育実践と制度改革の両輪で、ジェンダーギャップの解消をめざす

Waffleは2019年の設立以来、IT分野におけるジェンダーギャップの解消を目指し、教育プログラムの提供とあわせて、構造的課題へのアプローチとして政策提言にも注力してきました。ジェンダー格差は、個人の努力や意識改革だけでは乗り越えられない制度的・社会的な壁が根深く存在します。そのため、私たちは全国の実地現場から得られた知見と当事者の声をもとに、政府や関連省庁との対話を重ね、制度改革に向けた提言活動を継続的に行ってきました。

特に注力しているのが、毎年6月に政府が閣議決定する「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」および「女性活躍・男女共同参画の重点方針（女性版骨太の方針）」への反映です。2024年度は、Waffleの提言がこれら両方の国家方針に明記され、IT・理工系分野における女性の増加と、地域格差の是正を含む包括的な取り組みが国家的な課題として位置づけられました。

こうした政策提言活動は、理工系分野への女子・ノンバイナリーの参入促進、ロールモデルとの接点の拡充、早期のプログラミング教育機会の提供、女性教員の登用強化など、多岐にわたる施策の起点となっています。Waffleは今後も、教育現場と制度の橋渡し役として、現場から生まれる声を社会のルールづくりへと届け、誰もが自分らしく学び挑戦できる社会の実現に取り組んでいきます。

重点・提言内容

本年度の提言活動では、特に以下の視点を重視しました。

理工系分野における女性の育成を、地域全体で支える仕組みづくり

中高生の段階からIT・理工系の学びに触れられる機会を、都市部だけでなく地方でも均等に提供する必要があると提言しました。特に、Waffle Camp ホームタウン等の活動から得られた知見を踏まえ、保護者や教員など地域の大人の関与の重要性を強調しました。

早期教育の重要性とロールモデルとの接点強化

「女子は文系」という固定観念を超えるためには、10代前半から多様な進路の可能性を示すことが不可欠です。そのため、STEM分野で活躍する女性ロールモデルとの接点を全国に広げる施策や出前授業の拡充を提案しました。

インターンシップにおける構造的支援の充実

大学生に向けて、未経験者でも挑戦できるインターンシップ制度の拡充を提案。デジタル人材の育成は早期教育だけでなく、「実務経験の機会」からも後押しされるべきという観点を示しました。



成果まとめ（2024年度）

2024年6月、Waffleの提言内容が以下の2つの国家方針文書に明記されました。

「経済財政運営と改革の基本方針2024(骨太の方針)」

- IT分野をはじめとする理工系分野において、女子中高生の関心醸成、能力伸長に向けた「産学官・地域一体の取組」の推進
- 高等教育機関の女性教員登用の促進
- 男女別データの収集・分析の強化

女性活躍・男女共同参画の重点方針2024（女性版骨太の方針）

- 理工系分野での女性育成のための具体施策
- 中高生向けプログラミング教育機会の提供
- 女性ロールモデルとの接点強化（講演・出前授業など）
- インターンシップにおけるポジティブアクションの拡充

また、これらの方針を受けて、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の予算が、2024年度の72百万円から2025年度は79百万円へと引き上げられました。

これは、ジェンダーギャップ解消に向けた理系分野での政策的優先度が高まっていることの表れであり、Waffleがこれまで政策提言で訴えてきた「初等中等教育段階からの理系的学びの機会保障」の必要性が予算措置という形で反映された成果といえます。

これにより、Waffleの提言は2021年から4年連続で政府の重要政策文書に反映され、制度的な後押しを得て、現場での活動にも大きな影響を与えています。

メディア掲載・登壇

[主要メディア掲載]

2024年4月1日	新聞	教育家庭新聞 「技術」授業が変わる!教員向けスキルアップ講座 文科省などがオンラインで開催
2024年4月14日	新聞	愛媛新聞 多様な生き方実現を 女性経営者に訴え 今治でパネルディスカッション
2024年6月27日	ネット	Mashing UP 女子・ノンバイナリーの学生がテック×社会課題で未来を変える。Waffleがピッチイベントを開催
2024年7月1日	雑誌	中等教育資料 教育小景「IT分野のジェンダーギャップの観点から、学校現場にお願いしたいこと」
2024年7月16日	ネット	リセマム 女子中高生向け、IT教育・キャリア支援「WaffleCamp」
2024年7月20日	雑誌	電通育英会「IKUEI NEWS」 アントレプレナーへの道アントレプレートは、“世の中にないものを創り出す力”である
2024年8月30日	書籍	なぜ地方女子は東大を目指さないのか(光文社新書) 第3章 原因の追求 ①資格重視の傾向STEM系人材の重要性
2024年9月25日	雑誌	Forbes Japan 日本の「Women In Tech」の現在地と希望
2024年10月16日	雑誌	Forbes Japan Women In Tech 30 発表:テクノロジー領域で未来を創造する30人の女性
2024年10月10日	雑誌	JAWW NGOレポートー北京+30に向けて Technology and Gender
2024年10月15日	雑誌	情報処理学会学会誌「情報処理」2024年11月号 ジェンダーと情報:6. 科学技術分野のジェンダー平等に向けたNPOの役割-課題解決に向けたマルチステークホルダー連携-
2024年10月21日	テレビ	日本テレビ系列「news zero」 アプリ開発 女子中高生が世界大会で快挙
2024年10月22日	ネット	インプレス こどもとIT ChatGPT×折り紙で認知症を予防、 中学生がアプリ開発世界大会でTechnology Awardを獲得
2024年12月27日	雑誌	先端教育 女子とノンバイナリーからテックリーダーが生まれる社会へ
2025年1月22日	新聞	東京新聞 女性IT職 なり手支援 根深いジェンダーギャップ打開へ
2025年3月17日	新聞	東京新聞 「理系は男子」思い込みが女子生徒の将来を阻む 世界最低レベルの理系率を変える、「できる」を体感する試み
2025年3月27日	雑誌	ブラインインターナショナル GIRLS LEADERSHIP REPORT 2025 彼女たちが拓くデジタルの未来

総掲載数

Web:36件、新聞:23件、雑誌:12件、書籍1件、テレビ1件

※詳細は、<https://waffle-waffle.org/media/> をご覧ください。

[登壇・講演]

2024年4月24日	清泉女子大学講演 第37回 地球市民セミナー 「テクノロジーと女性のためのキャリア～わたし x IT=最強説～」 (ディレクター森田登壇)
2024年4月10日	今治市 しまテク (令和6年度) 第1回 「ダイバーシティミーティング in 今治～ひとりひとりが望む場所でそれぞれに輝く社会を目指して～」(理事長田中登壇)
2025年5月2日	秋田ハ이라ボ (五城目町) オープン記念式典講演「地域、ジェンダーを超える！ ハ이라ボが生み出す未来の可能性」(ディレクター森田登壇)
2025年6月22日	Wom Tech「スタンフォード大・松本杏奈さんを囲む STEM女子未来会議」(理事長田中登壇)
2025年8月5日	文部科学省夏季開催研修「未来を創る技術教育」講師 (理事長田中登壇)
2025年8月5日	ベネッセ ミライシードSUMMIT2024 トークセッション (ディレクター森田登壇)
2025年9月6日	ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞 トークセッション「世界は科学を必要とし、科学は女性を必要としている－ 科学界におけるジェンダー平等実現に向けてブレイクスルーはあるのか？」(理事長田中登壇)
2025年9月11日	滋賀県立高専共創フォーラム トークセッション「高専発!ダイバーシティで未来を切り拓く」(ディレクター森田登壇)
2025年10月9日	新経済連盟 JX Live!2024「アントレプレナーシップ教育の実現」(理事長田中登壇)
2025年1月18日	厚生労働省「女性の職業生活における活躍推進プロジェクトチーム」(ディレクター森田出席)
2025年2月16日	FLL Challenge 2024-2025 全国大会 審査員 (ディレクター森田登壇)
2025年3月10日	長野工業高等専門学校 教職員向け講演会 (ディレクター森田登壇)
2025年3月13日	かわさき男女共同参画ネットワーク全体会議「だれでも活躍できる!IT分野でひろがる未来」(ディレクター森田登壇)
2025年3月21日	FEW Japan + Women In Tech Global Japan Chapter International Women's Day 2025 (ディレクター森田登壇)

支援企業・団体

日頃より、Waffleの活動をご支援いただいている企業・団体の皆さまに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。
一部となりますが、ご支援をいただいた企業・団体の皆さまをご紹介します(順不同)。

[パートナー企業・団体]

メットライフ財団
一般財団法人三菱みらい育成財団
アメリカ大使館
公益財団法人みらいRITA
レノボ・ジャパン合同会社
United Way Worldwide
キンドリルジャパン株式会社
NTT 株式会社
デロイト トーマツ グループ合同会社

アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社
株式会社日本総合研究所
サイボウズ株式会社
株式会社サイバーエージェント
LINE ヤフー株式会社
ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社
株式会社セールスフォース・ジャパン
TokyoDev 株式会社
テクノプロ・ホールディングス株式会社

株式会社ヌーラボ
STORES 株式会社
Skyscanner Limited
KOA 株式会社
タカノ株式会社
株式会社ヤマウラ
一般社団法人インターナショナルボランティアグループ
Dropbox Japan 株式会社
合同会社 esa

[協力企業・団体]

iamtheCODE
アサヤ株式会社
株式会社アドウェイズ
一般社団法人 Arc & Beyond
一般社団法人 Women's Startup Lab Impact Foundation Japan
EDOCODE 株式会社
株式会社NTTドコモ
公益社団法人ガールスカウト日本連盟
気仙沼市役所
気仙沼市教育委員会

気仙沼市立月立小学校
気仙沼ビジネスサポートセンター
合同会社 G-experience
JP モルガン・チェース
株式会社女性が働きやすい会社
株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント
株式会社長崎国際テレビ
日本マイクロソフト株式会社
株式会社PR TIMES
ファインディ株式会社

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
株式会社 Progate
フリー株式会社
全国高校生マイプロジェクトアワード事務局
一般社団法人まるオフィス
特定非営利活動法人みんなのコード
メットライフ生命保険株式会社
モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社
ライフイズテック株式会社
公益財団法人山田進太郎D&I財団

多様な支援方法のご紹介 /

NTT株式会社



65名の社員ボランティアが参加し、4ヶ月にわたって中高生のグループワークに伴走していただきました。アプリ開発やビジネスピッチの支援を行い、Technovation Girls 2025 の成功を後押ししました。

日本マイクロソフト株式会社



社員による寄付プログラム「Give」を通じて、73名の有志社員がランチタイムを利用してWaffleのワークショップに参加してくださいました。私たちが取り組む社会課題の認識を新たに、学生に向けて心温まるメッセージをお寄せいただきました。

JPモルガン・チェース



作業環境の充実のために、モニター14台をご寄贈いただきました。このご支援は、IVG-Japanとのご縁によって実現しました。温かいご支援に心より感謝し、今後の活動に大切に活用してまいります。

一般社団法人インターナショナルボランティアグループ(IVG-Japan)



IVG-Japanが主催するチャリティウォークイベント「東京ヤマソン」と連携し、参加費の一部をご寄付いただきました。イベント当日は会場にブースを設け、テクノロジー分野におけるジェンダーギャップ解消に向けたWaffleの活動を紹介しました。

Waffleへのご支援

あなたの関わりが、誰かの「できた!」を生み出す

Waffleは、教育と制度の両面から、テクノロジー分野のジェンダーギャップ解消に挑戦しています。

日本の女子中高生の学力は世界的に見てもトップクラス。しかし、理工系・IT分野への進学率・就職率はOECD加盟国中で最低水準にとどまっています。この構造的な課題に対して、Waffleは「教育の現場」と「政策」の両面からアプローチし、全国の中高生・大学生に挑戦の選択肢を届けてきました。

この活動を、もっと広く、持続可能な形で展開していくために、企業・団体・個人の皆さまのご支援を必要としています。

関わり方は、ひとつではありません。

あなたに合ったスタイルで、Waffleの活動に参加いただけます。

ご協力方法 〈内容の一例〉

1

ボランティアでの支援

メンターや
事業運営サポート、
広報協力など

2

物品での支援

機材や製品の貸出
寄贈、会場提供

3

資金での支援

年間協賛、
助成金、寄付

4

物品・資金の 両面支援

イベント共催、
製品・会場提供の
組み合わせ

例えば ▶

3,000円のご寄付

参加者1名にパソコンを貸し出します。

10,000円のご寄付

地方に住むプログラム参加者1名分の交通費(片道)となり、東京で仲間に出会える機会をサポートできます。

年間3,000円以上のご寄付は、Waffleの「認定NPO法人」取得にもつながります。

認定NPOになることで、寄付控除などの税制優遇が受けられるようになり、より多くの方が支援しやすくなります。あなたの一歩が、社会を動かす力になります。

仲間とともに、一人ひとりの未来を支える

Waffleの活動を支えているのは、多様な立場から関わる社会人ボランティアの皆さんです。

本業の合間を縫って、学生とオンラインで繋がり、AIやプログラミングの学習をサポートし、私たちのプログラムを支えてくださっています。関わり方は、1回1-2時間のメンタリングから、4ヶ月の長期プログラムでの伴走までさまざま。それぞれの経験や得意分野を活かし、子どもたちの挑戦を後押ししています。

ボランティアの方々からは、「自分の知識が誰かの役に立ったと感じられた」「学生からも学ぶことが多く、キャリアを見つめ直すきっかけになった」といった声も届いています。

一緒に「可能性のドア」を開いていきませんか？

- ・社員ボランティアとして関わってみたい
- ・プログラムのスポンサーを検討したい
- ・自社のリソースを活かした協力方法を知りたい
- ・個人として寄付で応援したい

Waffleは、全国の中高生・大学生の挑戦に伴走し、一緒に未来をつくる仲間を求めています。

あなたの一歩が、次の世代の「できた!」を生み出します。

ご関心のある方は、まずはぜひ一度、

お気軽にご連絡・ご相談ください。

オンライン寄付は以下のリンクから、今すぐ手続きいただけます。



オンライン寄付 : <https://syncable.biz/associate/555>
ご興味をお持ちいただいた方は、以下の窓口にご連絡ください。
info@waffle-waffle.org



[団体概要]

住 所 〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目3-8 WTC annex 12階
代表者 理事長 田中沙弥果

お問い合わせ先 info@waffle-waffle.org
公式ウェブサイト <https://waffle-waffle.org/>



Instagram

@waffle_org



X

@Waffle_org



Facebook

@Waffle.org



LinkedIn

Waffle NPO



Bluesky

@waffle-org.bsky.social

